

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2013.12) 平成24年度:101~105.

幼児に向けた含嗽指導ツールの作成

笹野真里安 伊達由貴 内田祐介 塩谷今日子 外川恵子

## 幼児に向けた含嗽指導ツールの作成

キーワード：含嗽、幼児期、化学療法、清潔行動

旭川医科大学病院 4階西ナーステーション  
笹野真里安 伊達由貴 内田祐介 塩谷今日子 外川恵子

### 【はじめに】

化学療法をうける児にとって感染予防行動は重要であり、A 病院小児病棟では、児と家族の手洗い、歯磨きに対する意識向上、行動化に取り組んできた。しかし、含嗽については指導方法が確立されておらず、児や家族に関しても含嗽の意識と行動化は低いのが現状である。そこで発達課題として清潔行動に興味を持ち習得していく過程にある幼児期の児とその家族を対象とした含嗽指導ツールを検討した。

### 【目的】

児が楽しみながら含嗽に興味を持てること、また、家族が含嗽の方法や必要性を理解し、児へ反復して援助できるツールを作成する。

### 【方法】

作成期間：平成 24 年 8 月～11 月 対象年齢：幼児期  
作成方法：パワーポイントを活用したツールとリーフレットを作成し、入院中の児と付き添いの家族に試行した。

### 【結果】

《ツールの作成》1. 含嗽は幼時期に習得すべき清潔行動のひとつであり、その習得にむけた発達段階として、模倣遊びを通して他者の行う含嗽に興味を持つ段階→口腔機能の発達に伴い含嗽を実践できる段階→含嗽の必要性の理解ができ習慣化できる段階とすすんでいく。そのため、ツールは「含嗽の必要性」と「含嗽方法」を二部構成とし、また、リーフレットは付き添いの家族に向けて作成した。児の発達段階に合わせて、家族への指導、含嗽方法、含嗽の必要性を選択し、組み合わせて指導できるように作成した。2. 先行研究では 4 歳から 6 歳の就学前児童は「病気を引き起こすメカニズムとしてのバイキンを理解している」と述べている。<sup>1)</sup>そのため、ツールでは、バイキン退治という言葉を用いて含嗽の必要性を説明した。また、入院中である自分を主人公に投影できるように入院中の幼児を主人公としたストーリー展開とした。登場人物は入院している含嗽をしない児とし、含嗽の必要性と方法を説明する指導者を魔法使いとした。3. 幼児期は状況の理解の仕方が、その

時々知覚されたことに左右され、直感的にとらえる時期である。そのため、音楽やアニメーションを用いて視聴覚的に介入でき、ゲーム感覚で児が興味を持てるようにパワーポイントを使用し、遊びながら参加できるツールとした。4. 幼児期は象徴遊びや模倣遊びを通して物事を理解する時期であるため、ツールを使った説明後に看護師や付き添いの者が見本となって含嗽を実施していくこととした。また、付き添いの家族へは「含嗽をするタイミング」「含嗽の方法」の内容が記載されたリーフレットを渡し、反復して児への援助ができるようにした。

《ツールの試行》今回は、対象として設定していた幼児期の患児が少なく、幼児期前期 1 名、学童前期 2 名と付き添いの家族にツールを試行した。反応はオープニングから笑い声があがり「面白い」との発言があった。遊びを用いた場面では、指差しなど自ら参加していた。また、学童前期の児は終了後に、含嗽のタイミングについて言語化していた。今回は導入から終了まで全体で 10 分かかったが、最後まで興味を持って参加することができていた。

### 【まとめ】

幼児後期を対象に清潔行動の一つである含嗽に関心をもたせ、日常生活で確立させることは、感染予防行動の前提条件である。今回ツールを作成したが、まだ試行段階であり、病棟全体での運用までにはいたっていない。そのため、ツールの運用方法を検討・実施、アンケート調査等を行い、有効活用できるように引き続き取り組んでいきたい。また、今後は手洗い、歯磨き、含嗽を一緒に呼びかけるポスター作製や、タブレットなどを活用した児がより参加しやすいツールの作成を検討していきたい。

### 【引用・参考文献】

- 1) 平元泉：小児看護学教育における就学前児童と感染に対する概念の教授に関する研究，秋田大学医学部健康学科紀要，第 11 巻，第 2 号，p102，2003
- 2) 前田留美，井桁洋子：小児がん患者の口腔ケア，小児看護，34 (12)，p1627，2011

～遊びを通して参加できるツール作成～  
幼児にむけた合嗽指導

旭川医科大学病院4階西病棟  
笹野真里安 伊達由貴  
内田祐介 壇谷今日子 外川恵子

# はじめに

化学療法を受ける児にとって感染予防行動は重要であり、当病棟では手洗い、歯磨きに対する意識向上・行動化に取り組んできた。

しかし、含嗽については指導方法が確立しておらず、児や家族の含嗽への意識と行動化は低いのが現状である。そこで、発達段階として、清潔行動に興味を持ち習得していく過程にある「幼児期とその家族」を対象とした含嗽指導ツールを作成したので報告する。

# 目的・方法

目的: 児が含嗽に興味を持ち、含嗽の方法や

必要性を理解し、また、家族が児へ反復

して援助できるツールを作成する。

対象: 幼児期(3~6歳)

方法: 含嗽の必要性と方法について、パワー

ポイントを活用したツールとリーフレットを  
作成し入院中の児と家族に試行。

# 作成ポイント

模倣遊びから  
含嗽に興味を持つ

口腔機能の発達  
により含嗽できる

必要性を理解し  
習慣化できる

児の段階をアセスメントし、  
指導内容を選択する

家族への  
指導

含嗽方法

含嗽の  
必要性



題名：ルンルンと〇〇くんのばいきんたいじ  
～うがいのまき～

時間：5分

内容：うがいの習慣がない児が、魔法使いと冒険  
に出てうがいについて習い、うがいによって  
ばいきんを退治する内容。

登場人物：



魔法使いルンルン

指導者




〇〇くん

入院中の幼児

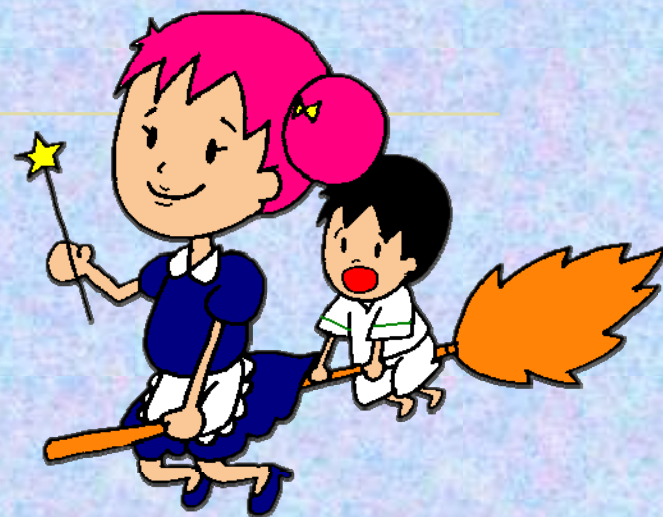


バイキン

ウイルス、細菌



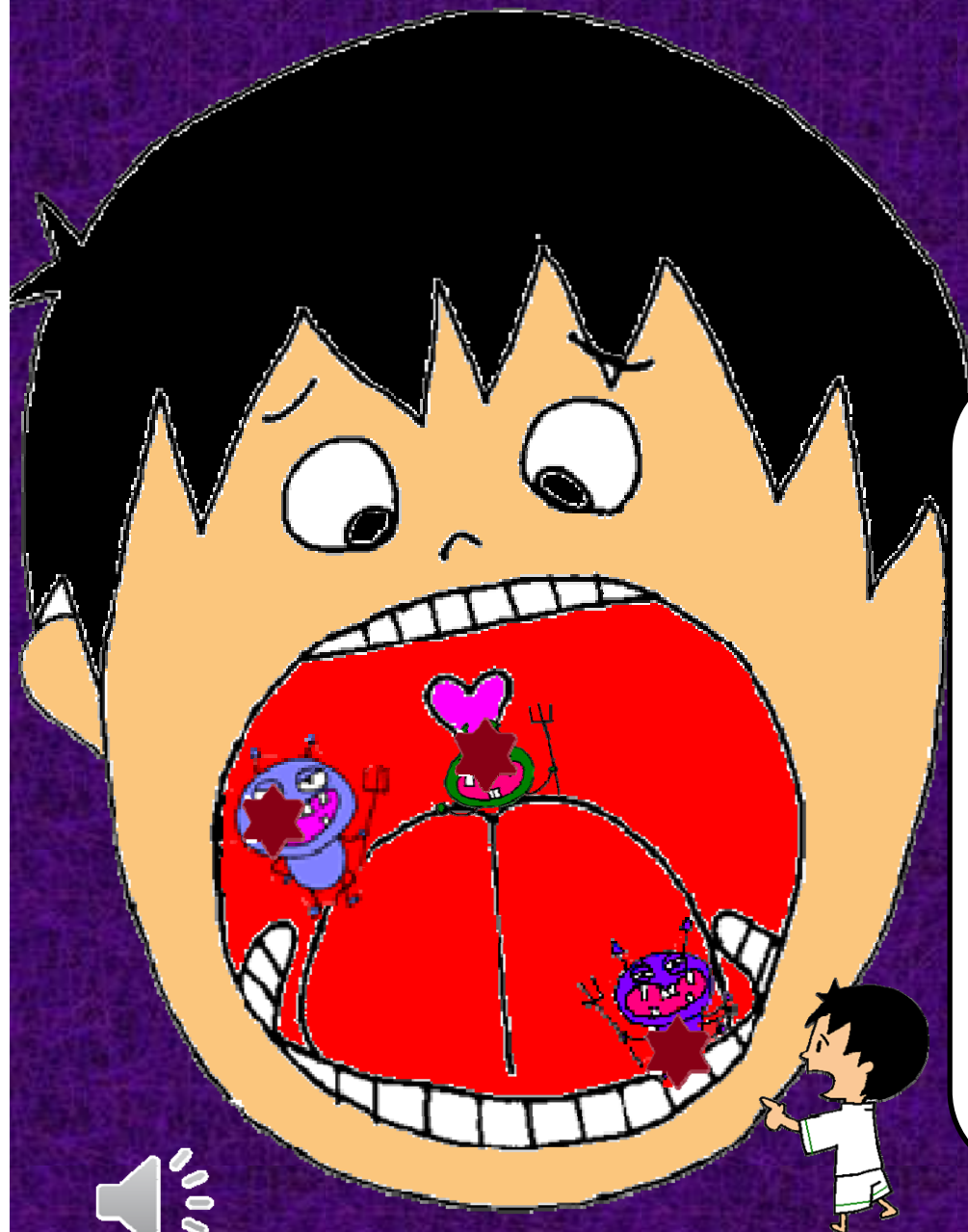
# ルンルンと〇〇くんの ばいきんたいじ



～うがいをしよう～

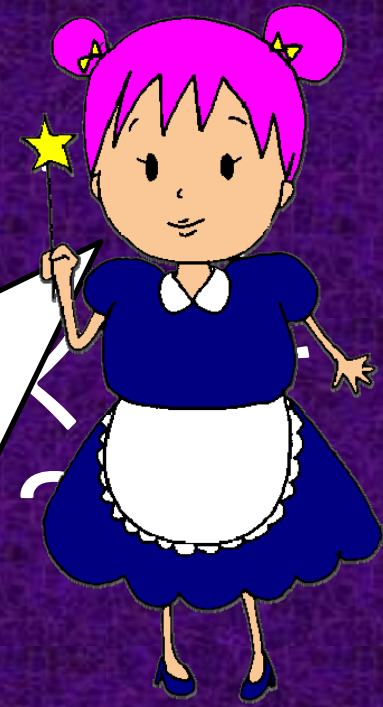






おくちのなかに  
3びき

はとしたの  
ちかく  
ほっぺ  
のどに  
ばいきんが  
かくれて  
いたね



ここは、まほうのもり . . .  
ばいきんの ひみつ が かいてある  
「まきもの」 3つ、かくされているよ。  
さがしてごらん。





バイキンは、  
ねているあいだに  
いっぱいなかまを  
ふやしているぞ。  
あさ おきたとき  
きみのおくちは  
ばいきんだらけだ。



ぶーくぶく  
がーらがら

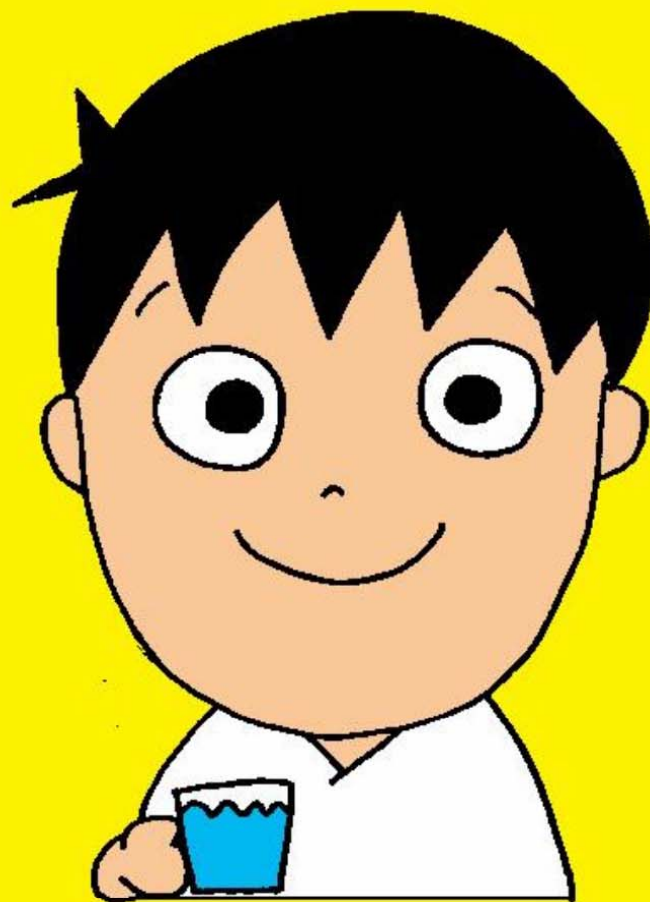


ぺっ ♪

ばいきんたいじの  
うがい



ぶくぶくうがいをしよう！





# 実施場面



看護師が児に  
説明している写真



児が興味をもって  
触っている写真

所要時間: 10分

参加者: 幼児期～学童前期3名、付き添い家族



看護師が家族へ説明している写真



家族向けリーフレット

# 今後の課題

今後、手洗い、歯磨き、含嗽をまとめた教育ツールの作成、運用方法を検討し、有効活用できるように引き続き取り組んでいきたい。

